

Hitachi Social Innovation is POWERING GOOD

世界を輝かせよう。

世界はいま、さまざまな課題に直面しています。

どうすれば、輝く未来への道を切り拓くことができるのでしょうか。

日立は、世界中の人々が望む“良いこと”すなわち“Good”を実現するために、

多様なパートナーと全力を注ぎたいと考えています。

すべての力を、より良い未来のために。

目次

■ 日立グループとは	1
日立グループの事業 日立グループ・アイデンティティと社会イノベーション事業 成長の軌跡	
■ 日立グループの価値創造	10
CEOメッセージ 社外取締役対談 価値創造プロセス 諸資本の活用と価値創出 価値創造ストーリー	
■ 日立グループの成長戦略	29
経営改革の変遷と中期経営計画 2021中期経営計画の概要 キャピタルアロケーション戦略 財務資本戦略 イノベーションの加速 環境ビジョンと脱炭素ビジネス Lumadaの強化 セクター別価値創造ストーリー	
■ 持続的成長を支える経営基盤	64
リスクと機会への対応 情報セキュリティの推進 労働安全衛生、従業員の健康 バリューチェーンにおける責任 コンプライアンス 品質保証 気候変動関連の情報開示 コーポレートガバナンス マネジメント体制	
■ データセクション	87
10カ年データ セグメントハイライト 財政状態、経営成績およびキャッシュ・フローの状況の分析 連結財政状態計算書 連結損益計算書 連結包括利益計算書 連結持分変動計算書 連結キャッシュ・フロー計算書 5カ年データ(非財務情報) 日立グループの事業運営体制 日立の価値創造におけるキーワード 会社情報・株式情報	

「日立 統合報告書 2019」編集方針

編集方針

2019年版の制作にあたっては、2018年度(2019年3月期)までの日立グループの歩みや、施策の成果と課題を振り返るとともに、今後日立がめざす姿と、めざす姿を実現するための競争優位性、戦略、基盤をご説明しています。具体的には、2019年度から始まった2021中期経営計画を中心に、そのビジョンである「社会イノベーション事業のグローバルリーダーになる」ために、日立がお客さまや社会と協創しながら、社会・環境・経済価値の向上を図り、持続可能な社会を実現していく姿を、分かり易く伝えることを重視しました。

なお編集にあたっては、国際統合報告評議会(IIRC)の「国際統合報告フレームワーク」、経済産業省の「価値協創ガイダンス」などを参考にしています。

表紙のご説明

ITサービスやエネルギー関連事業、産業システムや鉄道システムなど、日立は社会インフラをはじめとする幅広い事業領域において、最新のデジタル技術などを活用し、人々のQuality of Lifeの向上に貢献していきます。表紙には、そのような人々の暮らしにつながる日立の事業例を描いています。



報告対象範囲など

対象期間: 2018年度
2018年4月1日~2019年3月31日
(一部に2019年4月以降の活動内容等を含む。)

対象組織: (株)日立製作所およびその国内外の連結子会社

実績データ範囲:

- 社会: データ範囲を個々に記載
- 環境: 株式会社日立製作所および連結子会社803社、計804社
ただし、事業活動に伴う環境負荷のデータについては、負荷の90%を占める範囲(日立製作所の試算による)。

会計基準: 別途記載がない限り2013年度以前は米国会計基準、2014年度以降は国際財務報告基準(IFRS)に準拠しています。

統合報告書に関するお問い合わせ

広報・IR部: 03-3258-1111

株主・投資家向け情報

<https://www.hitachi.co.jp/IR/> (日本語)

<https://www.hitachi.com/IR-e/> (英語)

サステナビリティ

<https://www.hitachi.co.jp/sustainability/> (日本語)

<https://www.hitachi.com/sustainability/> (英語)

将来の見通しに関する注意事項

本報告書における当社の今後の計画、見通し、戦略などの将来予想に関する記述は、当社が開示時点で合理的であると判断する一定の前提に基づき作成しており、実際の業績などの結果は見通しと大きく異なることがあります。

その要因のうち、主なものは本報告書65ページからの「リスクと機会への対応」をご参照下さい。